

特別講演 1

「レニオ・アンジオテンシン・アルドステロン系の新時代

～アルドステロンブロックの重要性～」

国際医療福祉大学三田病院 内科教授

佐藤 敦久 先生

現在の高血圧治療の主なターゲットはアンジオテンシン II (AngII) である。そして、AngII をターゲットとする高血圧治療が方向性として間違いではないことを、アンジオテンシン変換酵素 (ACE) 阻害薬とアンジオテンシン II タイプ 1 受容体拮抗薬 (ARB) の数多くのエビデンスが示している。そして昨年 11 月に高血圧治療のターゲットをアルドステロンに置いた「選択的アルドステロンブロック」エプレレノンが発売された。これまでの臨床/基礎両分野の多くの研究からは、エプレレノンも今後、高血圧治療のファーストラインになる可能性が高いことが示唆される。特に食塩を非常に多く摂取する日本人の高血圧治療においてエプレレノンの使い方は非常に重要である。そして最近、AngII を抑制していても長期にはアルドステロンは抑制されずとは限らないこと (アルドステロンブレイクスルー)、アルドステロンは水と電解質バランスを調整しているだけのホルモンではないことが次々に明らかになり、アルドステロンをターゲットにした高血圧治療がさらに期待されるようになった。本日は、なぜ今これだけアルドステロンが注目されているかについて解説し、新規の降圧薬であるエプレレノンの特徴、その使い方について自研例も含めながら述べてみたい。